



JEG ニュースレター 177号

www.jegschweiz.com

2020年12月22日

小さな証

「なぜ、アラブの国に福音を？」筆者の決心を聞くと決まって尋ねられる質問、。 P2

JEG創立27周年

スイスにも日本語で礼拝できる教会をとのスイス人宣教師の祈りと熱情に応じて主が建てられた教会が27周年を迎えました。 P3

お泊まり会

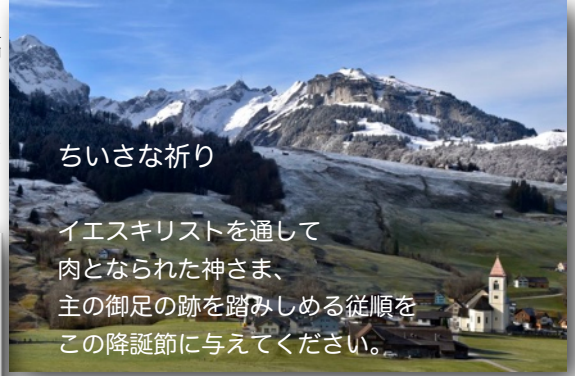
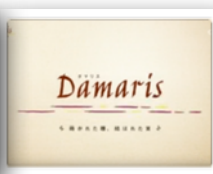
スイスJEG婦人会のお泊まり会が、フィンランドから加藤琢美牧師を迎えて開催されました。 P3

Damaris

1963年3月、茨城で福音を伝えていたクンツ宣教師夫妻を襲った悲劇~しかし夫妻は日本に踏み止まる。 P6-P8

ちいさな祈り

イエスキリストを通して肉となられた神さま、主の御足の跡を踏みしめる従順をこの降誕節に与えてください。



一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。しかし、死ぬなら、豊かな実を結びます。ヨハネによる福音書12：24

放火による長女ダマリスちゃんの焼死という過酷な事件のあともアルトゥア&ルツ・クンツ宣教師は日本に留まり福音を伝えました。日本と日本人を愛した夫婦の物語が日本CGNTVのドキュメンタリーとなり10月末に放映されました。



ちいさな証

私のビジョン

アーノルド・シュヴァイツァー

スイス日本語福音キリスト教会

スイスJEGとの関係は1993年の教会創立以来です。この教会で、JEGの若者と一緒にリーダーとしての経験を得ることが出来て感謝しています。ここ数年はJEGでの奉仕を中止せざるを得なくなりましたが、皆さんとの繋がりは未だに強く感じています。ですから、来年の初めにアラブの国へ行く前に私のビジョンについて分かち合いたいと思っています。

”なぜアラブの国へ？”

13歳の時、私は洗礼を受けてイエス・キリストの弟子となりました。イエスが私の主であれば、彼に従うべきだと理解しました。将来、何処で何をするのかは私が決定するのではなく、主イエスが決めることだと、その頃分かるようになりました。

18歳の時、ミッション会議に参加し、こういう話を聞きました。2000年前、イエス様は彼の弟子達にこう言われました。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」
マタイの福音書 28章18～20節

“すべての人々の所に行きなさい”と命じられた私たちは、その命令にどの位の人が従ったのでしょうか？ 実に、世界の三分の一の人々はまだ福音を聞くチャンスがありません。しかし、ほとんどの宣教師はクリスチャンが多い国々に行きます。まだ福音を聞く機会がない人々のほとんどがイスラム教の人々なのです。

私はそのミッション会議でこういう統計を見て感動しました。イエス様から与えられた仕事を達成しようとするなら、誰かがイスラムの世界に行かなくてはなりません。そのことが論理的にも当然なことだとその時に分かりました。その日、私は主にこう祈りました。「イスラムの世界にあなたの弟子として行きます。イエス様、この願いが間違っているなら、私を止めてください。」

数年が過ぎ、私は初めて中東のある国について聞きました。面積はイタリアより大きいですが、人口は僅かです。この国の人々は、ほぼ100%イスラム教です。はじめてこの国について聞いた時、彼らの中にイエスについて行く弟子は10人しかいませんでした（今でも、50人しかいません）。それを聞いたとき、また不思議と感動しました。そして、この中東の国の人々の為に祈り始めました。

大学の語学コースでアラブ語を選択しました。そして、その頃、宣教団体が主催した旅行団に参加しました。その最後の日、ハガキを送りたかったので郵便ポストをさがしていました。空港のセキュリティのあとにポストがあるとわかれて、手荷物検査を通過しました。しかし、ポストはどこにもありません。また手荷物検査に戻り、空港警備員に尋ねました。一人の若いお巡りさんは私にこう答えました：「携帯番号を交換できたら手伝いますよ！」

私は喜んで携帯番号を交換しました。そして、そのお巡りさんと一緒に空港の外に出て、郵便ポストを見つけたのです。私の拙いアラブ語で彼となんとか会話ができました。彼は私にこういう質問をしました：

歳はいくつですか？ 結婚していますか？ ラクダは好きですか？

そして、お巡りさんの案内によってセキュリティを通過しました。そのときから、そのお巡りさんとWhatsappで連絡をとっています。旅行のあと、神様からははっきりした声は聞けませんでした。このアラブの国に行くことが次の一歩だと何とか分かりました。宣教団体に連絡し、一応、首都の文化と言葉の学びに行く事にしました。

そのあと、大学の友人を通じて、南部の言語について詳しい言語学者との関係ができました。南方に住む民族はまだ自分達の言語でイエス・キリストについて聞いたことがありません。首都で文化と言語の“修業”のあと、チームを結成して、南部のSと言う町に行きたいという願いが私の心のなかでどんどん強くなりました。

同じ頃に、空港のお巡りさんからビデオメッセージが届きました。ビデオで見た景色はその国の南部のものに違いないとすぐに分かりました。驚くことに、彼は南のS町に転勤となったのです。お巡りさんからのビデオメッセージは、私にとって神様からの素晴らしい確認でした。将来、その土地に福音が伝えられるように、皆さん、ぜひ私と一緒に祈ってください。

皆さんの長い間のお祈りを心から感謝しています。私のミッション・ビジョンは自分の為だけではなく、JEGの皆さんの為でもあります。このJEGにおいて、世界中へ主イエス様の福音を喜んで伝えるに行く弟子たちが育てられることは、私の切なる願いであり、祈りの課題です。

*安全上の理由で氏名は仮名にいたしました。



1. 創立27周年記念礼拝

11月22日、スイス日本語福音キリスト教会は、教会を建て上げ、今日までスイスの群れを導き祝福してくださった主に感謝して、創立27周年の記念礼拝を捧げました。コロナ感染の増加を受けてZOOMを通じての礼拝でしたが、スイスJEGの立ち上げに愛と力を注がれた元宣教師からの祝辞メッセージ、さらに教会員からの願いと感謝の一言メッセージも(P4-P5)読まれ記念礼拝にふさわしいものとなりました。

当日のマイヤー牧師のメッセージ「主イエスにある喜び」の録画、ならびにドイツ語翻訳のファイルは、スイス日本語福音キリスト教会のホームページからダウンロードしてご利用いただけます。

<https://www.jegschweiz.com/>

2. クリスマス特別礼拝



今年のクリスマス礼拝は、12月13日、スイスJEGの歴史上初めて、オンライン (ZOOM)で行われました。

毎年、クリスマス礼拝には多くの人をお招きして、礼拝のあとも祝会でお交わりしますが、今年はそれが不可能になりました。ただ、オンラインということでスイス以外の国々 (ドイツ、フランス、チェコ、トルコ、アラブ首長国連邦、マレーシア、日本) からの兄弟姉妹が加わり、60名余りの参加者で救い主の降誕を共に祝う幸いを得

ました。

また、今年も世話人会によってバラエティに富むクリスマス礼拝が企画され、様々な賜物をもつ兄弟姉妹が、紙芝居&腹話術、スキット (天国の門) 素晴らしいクリスマス・キャロルの賛美が、彩りと温もりを加えたものとなりました。

マイヤー牧師は、いのちの光をテーマにヨハネ8：12からみことばを解き明かされました。マイヤー牧師は、光としてこ

ウエンディ宣教師の腹話術



られ、混乱と悪が支配するこの世界に、闇に打ち勝つ光としてこられた神様のひとり子イエス様と共に歩む意味を解かれました。

マイヤー牧師のメッセージは、スイスJEGのホームページでご視聴いただけます。



トムセン・ファミリーによるスキット

3. プリンセス会お泊まり会

フィンランドから加藤琢美宣教師をお迎えして10月12日から13日にかけて"わたしはプリンセス?"というテーマで持たれた女性のお泊まりリトリートは、9名の参加者のうち3名はコロナ濃厚接触者の疑いの為にzoomでの参加となりました。

私はZOOMでの参加で、モニターの向こうでは、ヴィンタートゥア近郊に投宿した6人の"プリンセス"達の楽しそうな姿が写っていて羨ましく思いました。



聖書を読んで、レクチャーを聞いてというよくあるリトリートの形からはみ出して、ゲームあり証あり、最後にはお互いの足を洗う洗足の時を持ちました。涙あり笑いありのプログラムで、お互いの信仰を励まし、絆を深め合いました。お泊まり組の方達はムービーナイトやお散歩の時間も楽しまれたようです。

みんなまたこのような女性の会を持ちたいとの声が上がっています。遠くフィンランド・ロバニエミから加藤琢美宣教師を遣わしてくださった神様に感謝しています。そしてコロナ禍の中全ての参加者の健康も守られたことにも感謝です。主は良いお方、恵みと憐れみの冠を被せてくださる方に栄光がありますように！

(レポート：婦人会リーダー・トムセン千香子)

お泊まり会の証

スイスは3-6月までロックダウンを経験し、私も今年の春以降、旅行は全て中止。そんな中でずっと楽しみにし、祈っていた婦人会の秋のお泊まり会。でもコロナ禍にあつて、直前には開催自体が危ぶまれたけれども、心を落ち着けて、皆で一致して祈り御心を求めていく中で、最終的にはお泊まり組とZoom参加組に分かれてのオンライン開催となりました。

参加者全員が顔を合わす事は出来なかったけれども、終わってみたら神様は天候もメンバーもプログラムも全てを祝福し、完全に主の御手の中で導いて下さった事が確信出来た集会でした。お泊まり組としては、各プログラムはもちろんの事、毎食の食事、ムービーナイトに観た『祈りのちから』、そして姉妹達と行った早朝散歩が最高で、聖霊に満たされました！本当に神様に感謝と賛美を捧げます。この集会を準備して下さった加藤先生と姉妹方も有難うございました。ヘス明美

4. ユース&ティーン アルプス山歩きの日

皆様にお祈りいただきましたユース&ティーンアルプス登山は、10月4日 (日) 怪我もなく事故もなく無事に終わることができました。突然襲ったスイスの寒気や天候不良が続く開催できるか当日まで分からず、ガイドをお願いしていました、松林ご夫妻にはプランB、プランCまで準備させてしまうと言う無茶振りを致しました。当日も雨が降っていましたが、集合場所に着いたときには晴れ間が出始め、登り始めたら快晴と言う素晴らしい主の計画に心から感謝いたしました。

詩篇121篇や133篇を思いつつ、登る山道は主と共に歩む私たちの毎日と同じで、私達がどんなに目標や計画を立てたとしても、成させてくださるのは主であることを教えられました。そしてユース&ティーンに注いでおられる主の祝福の油は絶賛中高年の私にまで流れ、険しい山道も喜びと力となりました。



一緒に登ってくださったトムセン千香子姉、ヘス明美姉、始めから終わりまで見守り続け、リードして下さった松林ご夫妻に心より感謝致します！この日の山登りの様子がショートビデオになりましたのでご覧ください。レポート：ユース担当今村葉子記

<https://www.youtube.com/watch?v=uuPozs76tgE>

5. 世界各地からホットな情報が満載の月報/ニュースレター&メルマガが届いています！

工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ、吉村美穂NL、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会報、ルーマニア川井勝太郎宣教師の週報、イザール通信、森祐理空レタ配達人、「宣教の声」が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。なお、スイスJEG会員の姉妹は、HPでパスワードを入れ、いつでも閲覧可能です。

ソリ・デオ・グロリア

クンツ・ルツ元宣教師
サント・ガーレン市



幾人かの日本人クリスチャンと、私たち「リタイアしたスイス人宣教師」たちが集まったことが事の始まりでした。

学生や旅行者を含む、スイス在留邦人のために、チューリッヒ近郊にて、イエス様をお伝えできる場所が与えられるようにとの明確なビジョンが、その一人一人に示されていたことに感動を覚えたのを思い出します。

驚くべきことに、私たちの中に芽生え始めていたビジョンが与えられる前から、主は既にそのご計画を進めておられたのです。ハンスウエリ・ゲルスタ宣教師がデピュテーションのために、スイス滞在中であったことも神のみこころでした。しかも、彼には、教会創立のための法律の知識が既に備えられていたのです。

日本の地で宣教を終え、スイスでリタイアされている宣教師の皆様にも心より感謝申し上げます。エミ先生、マツミュラー・ロッティ先生、ローラー・フリーダ宣教師を始め、その他にも、日本語での福音伝道を可能にしてくださった方々に敬意を表します。私は、主に向かって心から言います。

「ソリ・デオ・グロリア (ただ、神のみに栄光あれ)」

神に全ての誉れあり

ゲルスタ・ウエンディ宣教師
チューリッヒ州ウスター市



JEGの始まりが、はるか何千キロメートルも離れた空の彼方から来ていたことを皆さまはご存知でしょうか？

神からのビジョンは、私たちが、四年ぶりに日本からスイスへ一時帰国のために戻る途上、つまり、機内にて、夫ハンスウエリに与えられたのです。

「スイス在住の日本人のために教会が必要だ！」

それは、明らかに神のみこころでした。何と言っても、短期間の内に様々な奇蹟が立て続けに起こったからです。例えば、クリショーナ・ウスターの一角で、日本人クリスチャンたちと日本で宣教していたスイス人宣教師たちが集まる小会堂が与えられたこと。そして、私たち全員が同じ目的を持って集まったことも、神の御業の一つでした。

そして、このたび、私たちにはJEGの27回目のお誕生日を祝う恵みが与えられています。



スイスJEG創立27周年を迎えて

豊かに愛と誠実

ローラ・フリーダ宣教師
ベルン州 ギュムリンゲン



27年もの長きに渡り、主がJEGにお与えくださった溢れるほど豊かな愛と誠実に対して、皆様と共に感謝の意を表します。

愛する皆様に思いを馳せ、これからも、私たちの救い主を見上げつつ、神の内にある喜びで満たされますよう、お祈りいたします。ここに、詩篇103篇をもって、JEG27周年記念のお祝いの言葉とさせていただきます。

癒しの絆創膏

ハウリ・ジョアンヌ宣教師
アーガウ州ライトナウ



JEGの27回目のお誕生日おめでとうございます。この度、お祝いできるのは神の恵み故です。これまで、どれだけ多くの喜びに溢れた良き出会いがあったことでしょうか。みなさんがたと共に歩むことが許されたのは、神からの豊かな祝福です。JEGの成り立ちに思いを馳せてみます。

日本宣教からスイスに戻って4年が経った頃のことです。日本が恋しくて恋しくてたまりませんでした。ですから、JEGの立ち上げは、私にとっては特に、その穴埋めをする癒しの絆創膏となったのです。

スイス在住邦人クリスチャンと日本宣教を終えた、様々なミッショングループのスイス人宣教師の方々とのご奉仕は、私の霊的成長を促すと共に、私にとっての祝福となりました。最初の頃は、教会設立のための企画準備などのお手伝いをさせていただきました

徐々に、日本人の兄弟姉妹の方々が、教会に加わって下さり、その任務を引き継いでいってくださいました。それは、とても素晴らしいプロセスでした。これからの長い年月においても、天の父なる神様、御子、聖霊様のご加護の下で、JEGが更に豊かに祝福されますように、お祈りいたします。



初回の礼拝を終えて記念撮影 1993年11月

スイスJEG会員から ”ひとこと”

- 1) JEGのおかげで、スイスに居ても、ずっと日本語の礼拝に出ることが出来ました。いつも日本語で御言葉を聞くことができ、心から感謝します。
- 2) 神様がスイスで福音を伝えるためにと教会設立の思いを宣教師さん達に与え、実際にそのことを成して下さいたことを心から感謝いたします。
- 3) 日本と日本人を愛し、その半生を注がれた宣教師の祈りと熱情に主が応えて創立されたスイスJEGは私の魂の故郷です。
- 4) 神様は、先ず、JEGがあったウスターに私を導かれました。神様の愛を理解できず、何度もつまづきましたが、愛する兄弟姉妹を通して、その都度、私を起こしてくださいました。
- 5) 神様を愛し、与えられた賜物を生かし、JEGで忠実に仕えている一人一人を感謝します。



スイスJEG創立27周年を迎えて

主にある兄弟姉妹がそれぞれに与えられている賜物を十分に生かし、ますます主の業に励んでいる教会となりますように。



4) この神の家族が、ますます愛に溢れ、地域の光となり、イエスさまとともに歩めますように！！

5) これからも兄弟姉妹と手と手を取り合い、一つとなり、一人でも多くの方々に福音を伝えてゆける場として、主がJEGを更に用い、祝福して下さいますようお願いいたします。

自分の兄弟を愛している人は光の中にとどまり、その人のうちにはつまづきがありません。ヨハネの手紙 第一2章10節

6) 私たちが次の世代に福音を伝えられますように、私たちの心が備えられ、必要な変化も受け入れられますように。

DANKE



1) Ich danke Gott von Herzen, dass ich auch hier in der Schweiz regelmässig einen Gottesdienst auf Japanisch besuchen und eine biblische Botschaft auf meiner Muttersprache hören kann.

2) Ich danke Gott, dass er die Vision an Missionare gab, hier in der Schweiz das Evangelium zu predigen

und eine Gemeinde zu gründen.

3) Ich danke Gott für Missionare, die Japan und Japaner lieben und die Hälfte ihres Lebens dafür gaben. Als Antwort auf ihre Gebete und Leidenschaft liess er die JEG gründen. Die JEG ist die Zuhause von meiner Seele.

4) Zuerst danke ich Gott, dass er mich nach Uster führte, wo die JEG sich zuerst traf. Ich verstand damals Gottes Liebe nicht wirklich und erlebte viele Schwierigkeiten, aber jedes Mal stellte er mich durch liebe Geschwister wieder auf.

5) Ich danke für alle, die Gott lieben, die die JEG mittragen und mit ihren Gaben treu dienen.

私たちの願い

- 1) 私たちの間にある愛と信頼が続いてますます深くなりますように。
- 2) 去年を振り返ってみると、JEGのための一番の目標はヨハネ13.35でした。「もし互いの間に愛があるなら、それによってあなた方が私の弟子であることを、すべての人が認めるのです。」
- 3) ペテロ第一4. 10にありますように、

BITTE

1) Dass die Liebe und das Vertrauen untereinander weiter wachsen darf.

2) Gerade wenn ich an letztes Jahr denke, ist mein grosses Gebetsanliegen für die JEG, dass das Wort von Jesus in Johannes 13:35 in der JEG sichtbar wird:

"An eurer Liebe zueinander werden alle erkennen, dass ihr meine Jünger seid."

3) Wie es im 1.Petrus 4:10 steht: »Jeder soll den anderen mit der Gabe dienen, die er von Gott bekommen hat« damit wir eine Gemeinde werden, die sich für Gottes Arbeit einsetzt.

4) Dass wir als Familie Gottes in der Liebe wachsen und ein Licht auf Erde sein können im Unterwegssein mit Jesus.

5) Dass wir Geschwister, vereint und Hand in Hand, ein Ort sein können, wo das Evangelium an möglichst vielen Leuten weitergegeben wird! Gott möge die JEG segnen und gebrauchen.

1. Johannes 2.10: «Wer seine Geschwister liebt, lebt im Licht und bleibt im Licht und nichts kann ihn zu Fall bringen.»

6) dass wir bereit sind für Veränderungen, damit wir die nächste Generation erreichen können.



スイスJEG創立期から25周年までの記録スライドショーがこちらでご覧いただけます。12分

https://www.youtube.com/watch?v=0_p4rGpLHr0



”ドキュメンタリー・ダマリス～ 蒔かれた種、結ばれた実”

思ったこと、考えたこと、学んだこと、
感じたこと、。

ダマリスはこちらでご覧いただけます。
<https://www.youtube.com/watch?v=dXpks2OIVvQ>



きと召命をいただいて、CGNTVでの奉仕に就かれたとのことでした。皆さんは主からの賜物を生かして、一生懸命に仕事を進めておられました。三回ほど、スタッフの方々とお会いしましたが、たくさんの祝福を受けることができました。

そして、出来上がったドキュメンタリーは、本当に神様の御業に目を向けさせ、神様を褒め称える作品になったと思います。見てくださる方々が、信仰が強められ、伝道の心が励まされるようになればと、今でも家族全員で心から祈っています。

神様を褒め讃える作品に

大八木タビタ

クンツ家の三女

菅生キリスト教会

「”ダマリス”について、CGNTVにお願いしてドキュメンタリー番組を作りたいので、ご協力願えますか」と、今年7月上旬、父の友人の持永先生から電話がかかってきました。

ダマリスの話が取り上げられるなら、私たち家族ではなく、神様の栄光があがめられるような番組なら、協力してもいいかなと思いつつも、私たち家族には、ためらう気持ちがありました。

CGNTVの方から、計画書が送られてきましたが、その目的ははっきりしていましたので、私たちは協力に前向きになりました。また、持永先生も、このドキュメンタリーが、最初から主の栄光のために用いられることを願っておられることを知りました。私には、「スカイプで、スイスにいる母と姉にインタビューをするのを手伝っていただけますか?」とのCGNTVからの依頼でしたので、それなら大丈夫ではと思いました。その後、私へのインタビューや、横浜外人墓地訪問など、次々と課題が増えていってしまったのには、戸惑いました。

初めて、CGNTVのチームの4名の方にお会いした時、私はとても緊張していました。しかし、ディレクター、補佐、

そしてカメラマン2名の方はとても親切そして丁寧、かつ朗らかで、お互いに緊張感も解け、とてもいい雰囲気なかで協力しながら物事を進めていけました。

そのスタッフの方のお証も聴いて感動しました。それぞれが、主の導

全ては神の摂理の中に

松本章宏

シンガポールJCF牧師



スイス日本語福音キリスト教会のヘス明美さんから勧められてDamarisを見させていただきました。

8年前に私たちが渡り鳥夫婦としてスイス日本語福音教会を訪問した時におられたルツさんご夫妻の日本での働きのドキュメンタリーだということが分かりました。やがて、火事の場面となり、衝撃を受けました。それでも日本を去ることなく伝道し続けてくださったということ、そして、その時の実が今もしっかり残っていることを目の当たりにし、心が震えました。私もイギリス人宣教師の伝道によって救われた者として、このような犠牲を払ってあの方々は日本の地に福音の種を蒔き続けてくださったんだと思い、与えられている責任の大きさを痛感しました。

私は高校教師として4年間働いた後、OMF日本語学校で1年半働いたのですが、その時にゲルスタ先生にも教えさせていただきました。このご夫妻がスイス日本語福音教会の設立に関わり、さらにこの教会が今もヨーロッパと日本の架け橋として用いられていることを考える時、さらに、このコロナの中で始めた私のZoomでのバイブルスタディに、スイスからも兄弟姉妹が参加して下さっていることを考える時に、すべては大いなる神の摂理の中にあることを覚えずにはられません。持永牧師のように、私も息を引き取る時まで福音を語り続け、一人でも多くの方を天国へご案内する者でありたいと願います。



ダマリスちゃんのお墓の前で (横浜外人墓地)



『Damaris』制作の経緯 田口 摩耶

日本CGNTV ディレクター

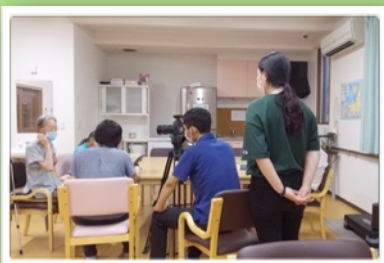
主の御名を賛美いたします。

この度は、ドキュメンタリーDamarisについて取り上げてくださり、また記事を書かせていただけること、感謝いたします。

このドキュメンタリーは、映像にも登場される持永牧師の強い希望によって始まりました。

ダマリスが召された3月26日、毎年行われているという記念礼拝の日にお話を伺うことができました。「この地のために払われた尊い犠牲について、忘れられてはいけない」との強い危機感を持っておられ、その熱意を受けて、制作が始まりました。

しかしコロナ禍の中、様々な不安と戦いながらの制作でもありました。消毒など出来る限りの対策をと考えながらも、撮影の度にウィルスを運んでいないだろうかと不安を抱き、また先生方の信仰のお姿や神様がなされたことをうまく伝えることができなかつたら、と悩みました。



ダマリスメモリアルケアセンターで

をさせていただきます。

たくさんのお話を伺う中で、映像には収まりきらなかった多くの素晴らしい証やエピソードがあります。そのうちの一つをご紹介しますと思います。

クンツ先生ご夫妻が神奈川におられたとき、ご近所に



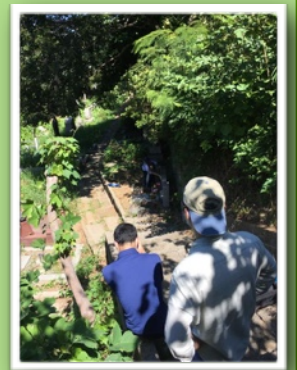
日本CGNTVチームによる撮影

通われているというお証でした。

過酷な苦難を経て日本に留まられただけでなく、50年もの間一人の魂を覚えて祈り続けた姿、またその祈りに応えてくださる神様の真実さに感動を覚えました。

今回、スイス日本語福音キリスト教会からも写真提供などのご協力をいただき、またその他多くの教会や信徒の皆様のお祈りやご協力をいただいたおかげで、完成までたどり着くことができました。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

撮影で伺う先々で、資料やお写真を持ち寄っていただき、クンツ先生やご家族の皆様がいかに慕われていたかを知る時ともなりました。持永先生やクンツ先生、ご家族を通して表された神様の愛が、本当に必要な方々に届くよう、お祈りいただき、用いていただければ幸いです。



横浜外人墓地での撮影

神への深い信頼と尊敬

井ノ上歌歩

スイス日本語福音キリスト教会



初めてルツ先生のお顔を拝見したのは、9月のzoom祈祷会だったでしょうか。その時は、ルツ姉がどのような半生を歩まれたのかを知らないままに、共に心を合わせてお祈りしました。

今回、ドキュメンタリーダマリスを観て、神様がクンツ夫妻とご家族を通して与えられた祝福について、深く知ることがで

きました。その御業は、まさに人間の想像をはるかに超えていると感じました。

ルツ先生と共に祈った夕べに、彼女の祈りの言葉を聞きながら、神様への深い信頼と尊敬を感じました。思いがけない試練の中にも神様は確かに働かれ、全てを益として用いてくださることを信じ、わたしも日々与えられる恵みを感謝して受け取り続けたい、と願っています。





心揺ることなく

松下瑞子

DRCネット



1984年から2011年まで私が働いていたJEMA(日本福音宣教師団)で、確か1990年始めの頃だったかと思いますが、Mr.Kunzが理事の一人としてご奉仕くださり、時々役員会でお会いする機会がありました。Mr. Kunzは忠実にJEMAの理事の一人としての責任を果たして下さり、寡黙ではありましたが、いつも笑顔を決やさず、私に優しい言葉をかけてくださいました。

また年一度の軽井沢でのJEMA Summer ConferenceでもMrs.Kunzやご家族とお会いすることがあり、Mrs.Kunzはリーベンツェラー宣教師団だけでなく、スイスアライアンスミッションから派遣された独身の姉妹方のために心を配っていらしたことを覚えております。

私は長年住んでいたスイスに毎夏休暇で戻っていますが、1998年頃、私とスイスの友人がサントガーレン近くを車で旅行中、「近くにいるのですが」とお電話したら「是非寄ってください」とご招待されお宅に伺ったことがありました。その頃既にMr.Kunzはご病気でしたが、Mrs.Kunzが作ってくださったおいしいお菓子とお茶のおもてなし、それにMr. Kunzの変わらぬ笑顔に心温まる交わりの時を持ったことを今も懐かしく思い出します。

また、2001年頃に私が大きな手術で川崎の病院に入院した時、タピタさんが、何度かお見舞いして下さり、



スイス教会でクンツ師ご夫妻と再会

病院の看護師たちと、しばらくみ言葉のための交わりを持ってくださったことも大切な思い出です。

Kunz家に起こった悲劇のことはお聞きしていましたが、今回のドキュメンタリーを通してさらに深い経過を知ることができました。この悲しい事件を通して、心揺ることなく日本の伝道に尽くされたMr.&Mrs.Kunz。続いてプリシラさん、タピタさんの日本での宣教の働きに感謝します。



クンツ宣教師夫妻の宣教地・茨城県石岡市

主によって強められるなら

菊地祥彦

豪州 Coromandel Baptist Church



アデレード在住の日本人のクリスチャンの友人が『Damaris』という日本CGNTV制作のドキュメンタリーを勧めてくれました。

せっかく勧めてくれたので、内容も何も知らないで観てみると、なんとクンツ・ルツ先生とご主人の故アルトゥール宣教師に関するドキュメンタリーでした。

涙なしには観れない、素晴らしいドキュメンタリーでした。とても感動しましたし、霊が励まされました。特に、番組の最後の方でのルツ先生のお話に感動しました。それは、ルツ先生が敵をも祝福し、愛していることが分かったからです。主は、ルツ先生とアルトゥール先生に敵対心をも覆う愛を与えられました。

「私は、私を強くして下さる方によって、どんなことでもできるのです。」(ピリピ4:13)

人間的に考えれば、自分の娘を殺した人物を、憎まずに赦し、祝福し、愛することは不可能に思えます。でも、キリスト者は、私を強くして下さる方によって、どんなことでもできるのです。私たちの心の中における戦いにおいて、無理と思える思いや考えを抱かせ、”奇跡的”な行動、愛に歩ませて下さいませ。

アルトゥール先生とルツ先生は、そのことを私に身をもって教えてくださいました。お二人のストーリーは、私の信仰を生涯にわたって(雲のように私を取り巻いて!!)助けてくれるでしょう!

アルトゥール先生、ルツ先生、ことばや口先だけでなく、行いと真実をもって愛するとは、どういうことなのかを教えてください、ありがとうございます。お二人に倣い、お二人に真実な愛を与えられた主に真実な愛を求めながら、私たちが同じ愛に歩むことができますように!



持永家で教えるクンツ師